

ワンピース？知らねえよ金と女と自由だろうがッ！！

クシャ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ワンピースの世界に転生してしまった主人公がただただ自由にやるだけ

目次

プロローグ	1
なんで悪魔の実ってクソまずいんだろぅね？	5
海賊王（ハーレムという意味で）に、俺はなるッ!!!!	12

プロローグ

ワンピース

数多の海賊たちがひと?ぎの大秘宝を求め、戦い、冒険をする作品
そこにあるドラマやロマンに、世界中の誰もが魅了された

これは、そのワンピースと言う作品の中に入り込んでしまった男の
物語

——拝啓、両親様。この度俺は、逝ってしまいました

いやーまさか両親よりも早く逝くとは思わなんだ

享年17歳、コンビニからの帰り道にマンホールに落っこちてその
まま死亡…か

…いやばかみたいなの死因じゃねえか!?嫌なんですけどこれ説明さ
れるの!?

なんで人生の最後まで黒歴史を残さなきゃいけないんだ!?
クソツツ!!

今更悔いても遅いか、黒歴史ってそういうものだしな

しかし俺はなぜ死んだことを自覚し、なぜ今もおんななバカなこ
とを考えられているのだろうか?

まさか実は死んでなかった?これも黒歴史か!?

それにここは一体どこなんだろうか、やけに天井が高いな

…あれ?手ってこんなちっちゃいもんだっけ?

ん?声が出ないぞ?いや、出せることは出せるんだけど、言葉に
なってくれない、まるで発声器官が未発達みたいな…

あれれえおかしいぞお！これってまさか…

いわゆる転生つてやつでは!?

き、きたー！これは勝つr…

勝たねえだろ冷静になれ俺、ここは一体どこだ？てか転生して赤ちゃんになったのはいいとして（よかねえけど置いといて）周りに誰もいないのはなぜ？まさか、捨て子なんかですか？

よく見れば高いなとしか思わなかった天井もボロボロだし、まるで古い神社のお堂のような雰囲気だ

…てか神社だなこれ、生まれ変わったのは日本だったか

ただ現代日本でこんなボロボロの神社を放置するとも思えないし、ここはおそらく俺の居た時代とは違うな、相当未来か過去のどちらかだろうな…

え、捨て子!?

不味くね？俺一体どうやって生きていけばいいんですの!?

やべえつて！まじでやべえつて!!!誰か助けて!!!!

危なかった、なんとかその場にあった木の实を食って生き延びた…
死にたくなるほどまじかったけど、毒かな？

首は座つてたし、乳幼児ではなくてよかつたぜ。俺が
さて、これからマジでどうしようか

とりあえず食料と服だな

衣食住の内2つが欠けているのは非常にまずい

まあ食料に関しては最悪外の草をむしり食べばいいんだけども
服がな…

作る？作っちゃう!?

まあ糸も布もねえのにどう作つたらいいのかわからんのだが
ど、どうしろと??

うーむ、とりあえず葉っぱでも巻いておくか、非常食にもなるし

お、これで意外と解決か!?

…どこが解決なんだいったい

あれから5年ほど立ってしまった…

結局なんにも現状は変わらないな

でも行動範囲は伸びたな

この神社から南下していけば街があるつてのはわかつた
なんで今日はその街の探検に行ってみようと思う

なんでも街ではお祭りをやるらしいからね

楽しみだなア…

…あれ？

おまつりは？

なんでしよけい？だれの？

…ツハ!?

まずい意識を飛ばしていた!!

あ、あれは、釜？茹でがま？

ほんで奥にいる鬼神のような男ときつたねえ男は…

カイドウとオロチじゃねえか
!!??

ふざけんなここのワンピースかよ
!!!!!!!!!!!!

なんで悪魔の実ってクソまずいんだらうね？

…まあワンピースだとわかったのはでかいな

自分のやるべきことが必然的にわかってくるから

まずは覇気だな！

どの覇気を使えるとかそういうのまじでわからないけどまあなんとかなるでしょ

それじゃあ修行だア!!

きつつつつつつ!

え?もうやめたいんだけど

まじで言ってるこれ?

やったことと言っててもトレーニングと見聞、武装色の覇気の修行だけなんだけど…

まあでもこれを極めなければ新世界じゃ生きていけないし、ワノ国なんて特に

うおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
!がんっばるっぞ!!!

3年経ってしもうた

おい、めちやくちや覇気使えるようになったぞ!

それになぜか俺にも霸王色の素質があったみたいで、今は拳に霸王色をまとわせようとしているぜ!

このまま鍛えて海に出るぜえ!

ん?なんかコツチに降ってきてないか?

あ、あれは!?カイドウ!?!?

なんで!?あ、自殺癖?嘘だろ?わわ、まじでクソがあ!!!

「ウオロロロ、また死ねなかったか。あ?誰だこのガキ?」

「コツチのセリフだ、いきなり降って来やがって、おかしいだろ」

「:..なんだ?テメエ?威勢がいいガキだな!名前は何だ!?俺の船に乗せてやる!」

「意味分かんねえ。:..ハルトだ」

「来ねえのか?来ねえならここで殺してやろう!」

「へ?」

「雷鳴:..」

の?
:..え?ちよつと待つて?嘘でしょ?てか俺の名前はガンスルーなの?

「八卦ツツツ!!!」

ええええええええええ!

あつつつぶな!?とつさにジャンプしなきゃ間に合わなかったぞこれ!

ふざけんな！しぬとこやったぞ！いや、殺す気なのか！

ああああああ！やってやるよお！

ドゴンドゴンと拳と金棒が打ち付けられあう

武装色で硬化した拳と金棒が当たるたびにバリバリと黒い閃光が散っている

互いの攻撃は当たらず、あたったとしても全て相殺されている

「ウオロロロ！なかなかやるな小僧オ！」

「…ツツ!?よゆ、うだな！」

「この程度じゃあ傷一つ付かんからなア！」

「なら、これでも喰らえ！」

ハルトは全力で硬化した拳に霸王色を込める…

「霸王拳!!」

「纏えてねえなア！」

「カスが！」

だがそれはうまくいかずいなされてしまう

カイドウの放つ攻撃はすべて致命傷になるうるものであり、8歳と
いうちっぽけすぎる状態での戦いは均衡せず、カイドウ有利のものに
変わっていく

拳を放つも避けられ、向こうの攻撃防ぎきれない、そんな状況が永
遠に続く

「ああああああああああ！」

「適当になつてきたぞ小僧オ！」

「ふぎっけん、なア！」

「ツ!? 今のはちよつと良かったぞ！」

「なんで指導されてんだゴミがよオ！」

「だっはははははwwwwおら喰らえエー！雷鳴八卦！」

「しぬ、つてええええ!!!」

ブオンと振られる金棒に合わせ、全力で拳を叩きつける

死まであとちよつとの秒読みの瞬間

金棒と拳は触れることなく黒い電気を走らせ膠着する

「つまさかやり遂げやがったのか小僧！ますます気に入ったぞ!!!」

「おああああああああああ!!!」

何分だろうか、少なくとも五分以上の膠着のあと、ようやくそれに限界が訪れる

ハルトの覇気が底を尽き、体力ももう残されてはいなかった

打ち付けた右の腕をグチャグチャにさせながら吹き飛び、奥の山に叩きつけられる

そこでハルトの意識は途切れた

…? 何だ? 何が起きて?

…いや、思い出した、そうか負けたのか

いや負けるだろ、どう勝てってんだあんなのにてかなんか右腕軽くね?

あれ? 無い、右腕無いじゃん!

嘘だろお!? 頼むおれの右腕生えてきてくれッ!

!? 生えたッ!?

なんでなんで!?

…: 面白いえば転生仕立ての頃クソまずい実食ったよな! あれ悪魔

の実じゃあないか!?

よっしゃ勝つる!これで:

いや、勝てねえだろ、どんな実なのかわっかんねえし
てか何だよ、この脱力感

あ、覇気がもう無いのか、すつくねえなあ、ルフィみたいにタイム
リミットみたいな感じで分かれてはないけど、使った分戻ってくれば
いいのに:

? あれ?なんか疲れ取れた?

お!覇気戻ってきてる!

:なんかちよつとわかった気がするぞ?多分俺の食った実は実現
とか増やす系の類だな?

:カイドウ転べ!

だめか、じゃあ言霊とかじゃねえや

じゃあ増やす?増殖?

覇気増えろ!増えろ!!

:ッ増えた!?!?!

これだ!俺の能力は覇気を増やす能力!

:?じゃあ腕生えたのは何だ?

あ、増やせるのは覇気だけじゃないのか?それで細胞を増やして再
生とか?ちよつと無理やりか?

いや!きつとそういうもんだ!この世界の能力って解釈次第など
こあるし

じゃあ俺は仮称フエフエの実の増殖人間!?だっさ!
せめて増幅人間がいいな、そうしよう!

「:小僧、テメエ腕ブチ切れてたよなあ?」

おっと、カイドウが気づいたか

…ふふふ、だが今の俺なら勝てる気がする！やばい！この全能感まじやばい！楽しい!!!

「ああ、今治った」

「何だ、能力者だったのか！」

「ああ、それも今自覚した」

「つくづくワケの分からねえ小僧だア！早く構えろ、続きを始めるぞ！」

しゃあやってやんよ！無敵の俺の能力見せてやるぜえ！

「霸王拳！」

オラア、俺の全力の覇気を”増殖”させながらぶっ放す！

覇気同士でぶつかって接触しなくなるってんなら、覇気を全力で増やして放つちまえばそれは覇気使いにとっては強力な大砲になる！
はず!!

「ツツツ!!?覇気が実体を持っているツ!!?」

おっしやあ！いいところ入ったっぽいぞ！このまま！

「武装、破裂ウツ!!」

パシンと手をたたき、音に武装色を乗せるように増やし、破裂させるように広げる！

「ガッ!？」

おら！きいてるだろん、おらあん！

「王蜂イ!!」

今度は刺すように鋭くまとって…

「オラア!!」

「グハア!」

べははは!このままぶつ殺して!…あれ?なん、なんすか?カラダ
重いんすけど…

「ごべあ、きぼちわるい!

無理、たつてらんない!

なにこれ?持久走のあとマラソン走らされてプールの授業やらさ
れたあとの国語の授業の感覚する!

あつ

「…なんだ?気絶しやがった…持って帰るか」

海賊王（ハーレムという意味で）に、俺はなるッ!!!

あれから何ヶ月経ったんだろうか、カイドウに負けたあと俺は鬼ヶ島で…

「おらアさつきと動け！早くしねえとクイーン様に怒られるだろ!!!」

雑用係をやっています

「ふざっけんなよなんだなんだコレ!!!????」

「お、おいどうした急に叫んで。お前が叫ぶと部下が気絶するからなるべく叫ばないでほしんだが」

「すまねえ」

「お、おういいんだ（なんこいつこつわ）」

おかしいだろ！どうして負けたら雑用係なんか、てかカイドウの部下とかじゃねえの!?!クイーンなの!?!

というよりも何で俺はナチュラルにスタジオ設営なんかやってんだよやめてやるよ畜生馬鹿がよ

「お、おい！どうした急に照明を放り投げて!?!クイーン様に殺されるぞ!!」

「…きを呼べ」

「はっ」

「おらあん！労基かクイーンを呼べえ!!ぶっ殺してやるよこのクソブラックデブがア!!!」

『急にどうしたア!!!』

オラアやってやるよ畜生、百獣海賊団vs俺だ！皆殺しにしてやる！
まずはクイーンだ！あの野郎急にこき使い始めやがって!!
クイーンは、遊郭か！
待ってるよ!!!

鬼ヶ島中の壁という壁を粉碎し一直線に遊郭に向かう
相手はお楽しみ中のクイーン！
見えた！あそこか！
そらッ！ライダーキーツク
!!!!!!

とてつもない轟音が遊郭に響く
ハラリはらりとちぎれた障子が舞う

「なっなんだあどうしたア!?!」

「お前を殺す（迫真）」

デデン！

今までの無賃労働、休みなし、残業は当たり前前の労働環境への怒りを拳に込め、狙うはクイーンの顔面

バゴン！と人体からなっつてはいけない音がする、サイボーグでも駄目だと思う

華麗なるヘッドショットである、クイーンは死んだ

「うおおおい何しやがんだクソガキ！」

「ちつまだ生きてんのか」

「怖えよ！気迫だけならカイドウ様にも匹敵するぜえ?！」

2 発目、今度こそちゃんと殺すつもりで覇気を込める
狙うはあのでかい腹
行くぞツツツ!!!

「おらア!!!」

「へブウウウウウウウウウ!!!????」

よし（適當）

「クイーン様?どうしたのかしら?」

な、なんだ?お、女?

そういやここ遊郭か…

てか、あれは、なんて、おっぱい、おっぱい!!

そうだ忘れていた、ワンピースの女キャラっておっぱいがでかいんだ!!

なんて存在感、なんて母性…

勝てないツツ!!

「あら?子供?ああ、この前カイドウ様が拾ってきた、どうしたのかなこんなところぞ?」

「ま、迷っちゃいました。えへへ」

「ああら、かわいい!ほら、こっちへおいで!」

「わーい!!」

拜啓、お父さん、友人たち、童貞ども俺は、俺はア!!

おっぱいには、敵わなかったよ…!

：決めたよ、俺は、おっぱい、いや、女の子、おっぱい、海賊になる!!!!

海賊になって女の子と遊びまくるんだ!!

そうと決まりやあカイドウのところまでレッツゴーだ!

とりあえず百獣海賊団に入れてもらおう!!

「ウオロロロロ! いいぞ、てめえの方からくるとは思わなかったがなア!!」

「しやああああああああああああああああ!!!!」

「ツ! ウオロロロロ!!! 霸王色の出力が上がってやがる!! 何でだ!!」

「しらん!」

「そうか!!! じゃあまずはドレスローザまで行って来い!!」

「了解だ! オラア行くぞドレスローザ!!!!」

「ウオロロロロ!!!」

「な、なんであの二人は霸王色をぶつけ合って会話してんだ?」

「さあな、と言うより、どうしたその怪我」

「いやあ? 遊郭にいたと思っただのに気づいたらこうなってる」

「何言ってるやがんだ、ついにイカれちまったか?」

「ああ!?!」

「すごい、すごいぞ、あのクイーンを、カイドウを前にしても物ともしない……」

「年も同じくらいなのに。よし！彼に話を聞きに行くぞ！！」

「それに男ならおでんのかっこよさもわかつてくれるかもしれない！！」